

## 転機における神との格闘

創世記三二章

男は、「放してくれ。夜が明けてしまふ」と叫んだが、ヤコブは、「いいえ、祝福してくださるまでは放しません」と言った。(27)

兄エサウが迎えに来ていることを知ったヤコブは、二十年前のことをエサウが深く恨んでいるに違いないと思い、非常に恐れしました。自分の罪と真正面から向き合うべき時が来たのです。ヤボクの渡しに一人残ったヤコブに神の使いが現れ、夜明けまで格闘しました。自分の力でなおも問題を解決しようとするヤコブに対し、神の使いは彼の股関節を打ったため、ヤコブは歩くことさえままならなくなりました。自己中心というヤコブの罪を徹底的に打ち砕く神のわざでした。その時にヤコブが発した言葉が今日の聖句です。もはや神に頼るしかヤコブには道がありませんでした。神はヤコブに「イスラエル」、「神が支配なさる」という意味の名を与えました。彼は神に全面降伏し、神の支配の下に生きるようになったのです。神と格闘し、神に打たれた者たちの幸いな人生がここにあります。